

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年3月19日

事業所名:おれんじキッズ&児童デイサービス・アニマート名護いさがわ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		6			スペースが狭く適切ではない為、個々に合った訓練がスムーズに出来るようなスペースを確保していく。
	2	職員の配置数は適切である	6				職員体制には問題ないが、送迎時間帯の体制に不安感がある為、十分な人材確保を継続し図っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている			6		バリアフリーではあるが、設備面が整っていない為、整備していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している			6		児童に費やす時間が多く職員会議等が行われていないので、時間を作り業務改善会議を開催していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		1	5		定期的アンケート等を実施し、業務改善に努めると共に質を高めていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している			6		平成31年3月19日よりHP公開及び事業所相談室内に掲示。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6			今後、第三者による外部評価も検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している			6		社内研修はあるが社外研修等の参加をし研修機会の確保をしていく。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6				アセスメントを基に個別支援計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している			6		アセスメントツールはあるが、しっかりと把握できていない為、把握していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6				毎月スタッフで話し合い決めている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6				個々に応じ対応している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		5	1		平日、休日、長期休暇等の支援内容に工夫が必要である。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	6				個別支援、集団活動を取り入れ作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6				出勤時に、当日の通所児童、支援内容等の確認をしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している			6		支援、送迎等、児童に費やす時間が多く、職員間での振り返りが出来ていないので職員間での情報を共有していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		6			日々の記録はしているが、支援の検証・改善に繋げるまでにはっていない場合もあるので、支援会議等で検証・改善へと繋げていくようにする。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6				定期的なモニタリングを実施し保護者や相談支援専門員との連携も図っていく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている		6			放課後等デイサービスガイドラインに目を通しガイドラインを把握するよう努める。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6				管理者が児童発達支援管理責任者が参加している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		6			学校との情報共有、連絡調整を図っていく。

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		6		医療的なケアが必要とする児童はいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6			現在のところ該当なし。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		6		日程が合わなく研修等は受けれていないので、今後、研修を受けていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6		機会を作ることが出来ていないので、今後、機会を作っていくようにする。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		6		参加することが出来ていない為、今後、参加していくようにしていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		6		連絡帳や送迎時に保護者と情報共有を図っているが、コミュニケーションが不足している部分もあるのでコミュニケーションを大事にしていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		6		保護者へ声かけはしているが、保護者が満足しているかという点では把握できていない為、今後、経過等の把握していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		6		説明は行っているが、質問等はないかも確認していくようにする。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		6		誰にでも相談しやすい環境作りを努めていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6		定期的な保護者会の開催をしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している		6		苦情等があった場合には、保護者へ連絡を取り、速やかに対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		6		予定表は出しているが通信の発行が遅れているので定期的に通信を発行していく。
	35	個人情報に十分注意している		6		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		6		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6		地域との触れ合いが出来ていない為、イベント等を企画して地域と触れ合いを図っていく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		6		マニュアルの整備はされているが、保護者等への周知の面では出来ていないので、保護者にも周知していくようにする。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		6		定期的な訓練を実施していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		6		虐待防止法の対応と理解のテキストを使用して定期的にスタッフで読み合わせを行って虐待防止に努める。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		6		身体拘束を行う児童がいないうえ、記載は行っていないが、今後、どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて説明や記載をしていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		6		事例集を作成し定期的な研修等にて共有していく。